

12-d ー 新生児のプロトロンビン機能 ー

秋田大学産婦人科学教室

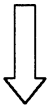
研究協力者 真木正博

- (1) 生後48時間以内の新生児トロンボテスト活性が20%未満の低プロトロンビン血症の発生頻度をみると、地域差があり、秋田県では7% (41/580)、中京地区19% (43/232)、福岡県22% (52/236)であり、北方で低く、南方で高かった。このことは乳児頭蓋内出血の発生頻度の地域別疫学調査の結果と合致する。
- (2) 臍帯血のトロンボテスト値は男児で、 22.6 ± 3.9 %, 女児で 30.6 ± 7.6 %であり、女児の方が有意 ($P < 0.01$) に高かった。このことは乳児頭蓋内出血が女児よりも男子に多発するという疫学的な所見を合致する。
- (3) 硫酸バリウムなどの不溶性無機塩類に対する吸着性の差を利用して、 r -carboxyprothrombin と r -acarboxyprothrombin の分別定量を発色基質を用いて行なった。分娩前に母体に納豆を摂取させると、臍帯血の r -acarboxyprothrombin の絶対量も、また総プロトロンビンに対する r -acarboxyprothrombin の比も共に、非摂取群に比して有意に低下した。つまり、納豆の摂取によって、プロトロンビンの r -carboxylation が促進されることを示していた。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



(1)生後 48 時間以内の新生児トロンボテスト活性が 20%未満の低プロトロンビン血症の発生頻度をみると、地域差があり、秋田県では 7%(41/580)、中京地区 19%(43/232)、福岡県 22%(52/236)であり、北方で低く、南方で高かった。このことは乳児頭蓋内出血の発生頻度の地域別疫学調査の結果と合致する。